



「三和ふるさと教育」資料集

わたしたちの

三和

いわき市立三和小学校
iwaki city-run Miwa Elementary School
Since2015





ふるさとを学んでいくと
見慣れた風景が、身近な人々の姿が
いつもとちがって見えてきます

さあ、ふるさとのよさを、さがしに出かけましょう
それは、新しい自分を発見する旅になるはずです

みわまち案内人「みーわん」のプロフィール

名前	みーわん(「三和は一つ」からきているらしい)
誕生日	3月1日(年れい不詳)
住所	雨降山の山頂 (普段は石仏に変身して休んでいる)
趣味	三和町探検
好きな食べ物	そば、大師講団子、野菜、柏餅
特殊能力	杉のスティックをふると好きな所に瞬間移動できる。
好きなことば	「継続は力なり」



あいさつ

三和町区長会長 永山肇一

三和町には四季折々の美しい自然があります。素晴らしい歴史や文化があります。町民は、自然の恵みに感謝し、人と人とのつながりを大切に豊かな生活をおくっています。人口減少や少子高齢化など、様々な課題がありますが、ふるさとを愛する町民がいる限り、町の未来は明るいと思っています。

「三和は一つ」の理念のもと、平成27年4月に誕生した三和小学校に町民は大きな期待を寄せています。三和ならではの教育「三和ふるさと教育」を通して、子どもたちに、ふるさとへの誇りと愛着、地域の人々への感謝の心を育ててほしいです。そして、三和町の未来を担う素晴らしい人材を多く輩出してくれることを願っています。

子どもたちへ

監修者 いわき市いわき総合図書館長 夏井芳徳

三和の春を色でいうと、何色かな？ 三和の夏を色でいうと、何色かな？ 三和の秋を色でいうと、何色かな？ 三和の冬を色でいうと、何色かな？

春は桜の花の色、それとも、フクジュソウの花の金色かな？ 夏はスイカの実の真っ赤？ それとも、トウモロコシの黄色？ 秋は稲が実った田んぼの金色？ 赤とんぼの色？ 十五夜お月さんの色？ それとも、山のもみじの色かな？ 冬はすきとおった氷の色？ それとも、雪の白色？

みなさん、それぞれに答えがあると思います。
みなさんのふるさと、三和は春夏秋冬、四季の移り変わりがはっきりとしていて、それが大きな魅力になっています。

また、みなさんの周りには、家族や地域の人たち、学校の先生など、たくさんの方がいて、みなさんを育て、見守ってくれています。

みなさんの身のまわりのことや、地域のことを、もっとたくさん知って、もっとたくさん好きになろう。ふるさとを、みなさんの宝物にしてしまおう。

「三和ふるさと教育」への思い

いわき市立三和小学校長 大内 克之

平成27年4月に誕生した三和小学校は、「三和ふるさと教育」を推進しています。三和町の自然や歴史、文化を教材とし、地域の方々との交流を通して学ぶ「三和ふるさと教育」は、子どもたちに、ふるさとへの誇りと愛着、感謝の心を育成することが目的です。生涯にわたって自分らしく生きていくためのキャリア教育の視点も加え、各教科、特別活動等と関連させ、教育活動全体で行っています。

この資料集は、「三和ふるさと教育」の教科書的な資料として、小学校6年間で子どもたちに学ばせたい三和町のすばらしさを掲載しています。作成にあたり、多くの方々にご協力いただきました。心から御礼を申し上げます。

この資料集が、学校、家庭、地域で活用され、三和町の子どもたちが心豊かにたくましく成長していくことを願っています。また、ふるさとの魅力を再発見するきっかけとなり、三和町の振興・発展に役立つことができれば幸いです。

〈小学生の皆さんへ〉

三和町はすてきな町です。学校、家庭、地域で、三和町のことをたくさん学んでください。そして、ふるさとに、誇りと感謝の気持ちをもってください。「三和ふるさと教育」の学習で身につけた力は、これから生きていく上で大きく役立ちます。6年間でたくさんのごことを学び、自信をもって中学校に旅立ってください。

〈先生方へ〉

この資料集は、小学生に学ばせたい三和町の魅力を掲載しています。対象学年は想定していますが、児童の発達段階、教科の特質に応じて弾力的に活用してください。紙面の都合で掲載できなかった内容もたくさんあります。新たな教材を見つけて、三和小学校ならではの授業づくりに取り組んでいってください。そして、先生自身も三和町のよさを存分に味わい、子どもたちと一緒に充実した学校生活を送ってください。

〈保護者の皆様へ〉

ふるさとは、人格形成に大きな影響を与えます。ふるさとでの経験の一つ一つが、生きていく上での自信や心の支えとなります。子どもたちは、地域の中で人と人との結びつきや連帯感、感謝の心などを学んでいきます。「三和ふるさと教育」は、子どもたちのこれからの人生に大きく役立つ学習だと確信しています。ご家庭でも、この資料集を参考に、三和町のよさをお子さんに伝えていってください。

〈地域の皆様へ〉

子どもたちは、地域の歴史、文化、伝統を知ることによって初めてふるさとを意識し、ふるさとへの誇りや愛着、感謝の気持ちを抱くことができます。そして、地域の人々との連帯感を高め、人と人が支え合いながら生きていくことの大切さを学んでいきます。地域の皆様にも、この資料集を読んでいただき、三和町の未来を担う子どもたちの健やかな成長に向けて、ご支援とご協力をお願いいたします。

もくじ

1	あいさつ（三和町区長会長：永山肇一）	1
2	子どもたちへ（いわき総合図書館長：夏井芳徳）	1
3	「三和ふるさと教育」への思い（校長：大内克之）	2
4	三和町マップ	4
5	ふるさと資料	
(1)	わたしたちの校章と校歌（低学年・音楽科）	6
(2)	町たんけんに行こう（低学年・生活科）	8
(3)	ふるさとの民話「鼻どり地藏さま」（中学年・国語科）	10
(4)	美しい自然がいっぱい（中学年・社会科）	14
(5)	むかしの三和町（中学年・社会科）	18
(6)	ふるさとの伝統を守る「三匹獅子舞」（高学年・道徳科）	22
(7)	ふるさとの森林（高学年・社会科）	26
(8)	町を支えている人々（高学年・総合的な学習の時間）	30
(9)	夢をかなえる（高学年・学級活動）	32
(10)	まだまだあるよ 三和のよさ	34
◇	監修者・作成委員・参考文献等	36
◇	あとがき（編集委員長：小池沙和子）	37



三和町マップ



— 道路
- - - 地区の境



- ### 町たんけんに行こう(P8-9)
- | | |
|------------|--------|
| ①三和小学校 | ⑧永戸駐在所 |
| ②三和中学校 | ⑨沢渡郵便局 |
| ③三和ふれあい館 | ⑩三坂郵便局 |
| ④三和給食共同調理場 | ⑪合戸郵便局 |
| ⑤三和分遣所 | ⑫永井郵便局 |
| ⑥沢渡駐在所 | ⑬好間川 |
| ⑦三坂駐在所 | |



- ### むかしの三和町(P18-21)
- | | |
|-------|---------|
| ⑮良々堂山 | ⑳上市萱宿 |
| ⑰合戸宿 | ㉑上三坂宿 |
| ⑱渡戸宿 | ㉒雨降山 |
| ㉓中寺宿 | ㉔沢渡山観音寺 |

- ### 美しい自然がいっぱい(P14-17)
- | | |
|------|-----------|
| ⑬好間川 | ⑳差塩湿原 |
| ⑮水石山 | ㉑ブナ石 |
| ⑰芝山 | ㉒新田の大山桜 |
| ⑱三坂川 | ㉓下三坂の種まき桜 |
| ㉔小玉川 | ㉕上三坂のしだれ栗 |



- ### ふるさとの民話「鼻どり地藏さま」(P10-13)
- | |
|--------------|
| ⑭「鼻どり地藏さま」 |
| ⑮「水石山」 |
| ⑯「ザザミキの小豆とき」 |
| ⑰「白へびさま」 |
| ⑱「良々堂山の天狗」 |



- ### ふるさとの森林(P26-29)
- | | |
|------|---------|
| ㉒雨降山 | ㉔雪害復興之碑 |
|------|---------|

- ### まだまだあるよ三和のよさ(P34-35)
- | | |
|-------|--------|
| ㉕三坂城跡 | ㉖竹ノ内遺跡 |
|-------|--------|



わたしたちの 校章と校歌

(低学年・音楽科)

平成27年の4月に、5つの学校が1つになって三和小学校ができました。

学校ができたときは、校章も校歌もありませんでした。そこで、おにいさんやおねえさん、先生や町の人が、みんなであたらしい学校の校章と校歌をつくりました。校章と校歌には、多くの人の思いが込められています。



<校章に込めた思い>

- 金色の「三和」はかがやく子どもたち
- かさなる3つの円は、三和町ができる前の3つの村
- 外側の大きな円は、町民の団結力「三和は一つ」
- まわりの葉っぱは、まっすぐとすくすく育つ杉
- 青色は、美しい空や川、みどり色は、ゆたかな自然

平成27年5月、小中学校PTAが中心となって「校歌・校章検討委員会」を立ち上げました。校章の監修を、南屋武広さん(NHKチーフディレクター)、校歌の作曲を、大友良英さん(作曲家)にお願いしました。歌詞は、町民に公募をかけて集めた言葉から作りました。「三和の里ふれあいびと」は、町民みんなで作ったことを表している名前です。平成28年2月20日、三和ふれあい館で盛大に披露式典が行われました。

私は、小さい頃、歌を歌うのが苦手でした。この歌は、誰でも元気に歌えるようにと考えて作曲しました。披露式典で皆さんと一緒に歌ったときは、うれしくて涙が出そうになりました。ずっと大切にしていってほしいと思っています。

(作曲家:大友良英)



校歌

「愛しき三和の里」

一
 すぐきな夢を かなえるために
 みんなと共に 学び続けよう
 なやむことも あるだろう
 つらいことも あるだろう
 そんな時こそ 未来を信じ
 希望をもって 歩いていこう
 ここは愛しき 三和の里
 水石の山 ゆうゆうと
 学ぶ楽しさ 知るところ

二
 幸せいっぱい 見つけるために
 みんなと共に 学び続けよう
 つまづくことも あるだろう
 きずつくことも あるだろう
 そんな時こそ 仲間を信じ
 励まし合って 歩いていこう
 ここは愛しき 三和の里
 ふるさとの川 きらきらと
 生きる喜び 知るところ

作詞 三和の里ふれあいびと
 作曲 大友良英



すぐきな校歌だなあ～



歌詞には、すぐきなことばが、たくさんでできます。あなたは、どのことばが好きですか。歌のとちゅうに拍手が入ります。みんなで元気に歌いましょう。



三和小学校



平成27年に、沢渡小、三阪小、差塩小、永戸小、永井小の5校が1つになってできたのが三和小学校です。新しい学校で、たくさんの友だちが元気に生活しています。



三和ふれあい館

(いわき市地域交流センター)

三和支所、三和公民館、屋内ゲートボール場などがあります。町の人が入ることができる大きなお風呂もあります。



三和学校給食共同調理場

三和小学校や三和中学校などの給食を作り、学校にとどけています。三和町の新鮮な野菜をたくさん使った給食は、とてもおいしいです。

三和中学校



平成27年に、三和中、三阪中、差塩中、永井中の4校が1つになって新しい三和中学校ができました。校章と校歌は三和小学校と同じです。



国道49号

三和小学校の近くを通る大きな道路です。いわき市から郡山市、会津若松市などの大きなまちを通り、新潟県までつづいています。



好間川

三和小学校の前を流れる川です。好間町まで続いています。川の水がとてもきれいなので、いろいろな生き物がすんでいます。



郵便局

(沢渡 三阪 合戸 永井)

手紙や荷物を、みんなの家に配達しています。郵便局の窓口では、切手やはがきを買うことができます。



学校の近くだけでもこんなにたくさんのものがあるんだね!



内郷消防署三和分遣所

火事や事故がおこると、消防車や救急車がすぐ出動します。人の命を守るために、毎日、いろいろな訓練をしています。

いわき中央警察署駐在所

(沢渡・三坂・永戸)

警察の駐在所員さんは、わたしたちが安心して生活できるようにパトロールをしています。こまったことがあれば、いつでも相談にのってくれます。



町たんけんに行こう

低学年
生活科

みなさんは、三和町について、町には、いろいろなことで学校のまわり

どんなことを知っていますか。なものがあります。を探検してみましょう。



町たんけんをしたら、分かったことをまとめて、

友だちやお家のひとにも教えてあげましょう

ふるさとの民話「鼻どり地蔵さま」(中学年・国語科)

三和町には、たくさんの民話がのこっています。民話は、むかしから語りつたえられてきたお話です。民話にふれることで、その時代の人々の生活のようすや考え方、人と自然とのつながりなどを知ることができます。ふるさとの民話を読んでみましょう。

『鼻どり地蔵さま』

むかしむかし、下永井の高野前から火沢に行く道のわきに、小さな地蔵さまがまつられていました。その近くに、おじいさんとおばあさんが2人ですんでいました。

5月には田植えが始まります。それまでに、馬を使って田んぼのしろかきをしなければなりません。しかし、田んぼの中で馬をあやつる「鼻どり」は、としをとったおじいさんにとって、たいへんむずかしいことでした。

「どうしたらいいかなあ。しろかきができねえなら、今年の田植えはあきらめるしかねえなあ。」

おじいさんは、さびしそうにつぶやきました。

その時、見たこともない男の子が、こりわらって戸口に立っているのに気づきました。

「じいさま、ばあさま、おらでよかったら、『鼻どり』してやっかい。」

男の子は、そう言うと馬を引いて田んぼに行ってしまうました。



おどろきながらも、おじいさんとおばあさんが後をついていくと、男の子は、馬といっしょに田んぼに入ってしろかきをはじめました。その「鼻どり」のうまいこと。ふだんなら2、3日はかかるしろかきが、夕方には、すっかりおわってしまいました。

「いやあ、ありがたい。これで今年も田植えができる。」

おじいさんとおばあさんは、大よろこびです。

「ありがとなあ。早く足あらって、家にあがれや。」

おじいさんが声をかけました。おばあさんは、いそいでごちそうをつくり、おぜんにならべました。しかし、いつまでたっても、男の子は家にあがってきません。ふしぎに思ってさがしに行きましたが、男の子はどこにも見あたりません。



ふと、気づくと、道ばたのお地蔵さまが、どろだらけになっていました。

「そうだったのか。年よりがこまっていたんで、お地蔵さまがたすけてくれたのか。」

2人は、こしをおろして手を合わせました。

鼻どり地蔵さまは、長徳寺にうつされ、今でも、土地の人々を、見まもっているそうです。

「永井の昔ばなし(永井小・中学校PTA編)」を参考にしました。



民話

三和町につたわる

みずいしやま 水石山

水石山の山頂に水石と呼ばれる石があります。この石には大きなくぼみがあり、いつも水がたまっていて、かれることはありません。また、雨が降ってもあふれることがないそうです。日照りが続いてこまったとき、水をかき回すと雨が降るといわれています。



あずき ザザミキの小豆とき

上永井に、ザザミキとよばれた川がありました。そこは、「小豆とき」という妖怪がいるといわれるさびしいところでした。

ある冬の日の夕方、おばあさんがそこを通ると、ザーザーという川の音にまじって、ザックザックという音が聞こえてきたので、おそろおそろ川を通りすぎました。

少し歩くと、人かげがあったのでほっとして声をかけました。すると、ぼうず頭の妖怪がふりむき、おそろしい声で言いました。

「小豆とぐべか、人にとって食うべか。」

おばあさんはびっくりして家に逃げ帰りました。



白へびさま

あるとき、神社をそうじしていると白いへびが出てきました。人々は、見世物にしようとへびを追いかけました。みんなが行ったり来たりしているうちに、神主さまがゴマの木で目をけがしてしまいました。

その後、いろいろな災いがおこりました。人々は、白へびさまのたたりだとうわさしました。それからは、たたりをおそれてゴマをつくらなくなりました。そのかわりに、じゅうねん(エゴマ)をつくるようになったといわれています。



ややどうさん てんぐ 良々堂山の天狗

良々堂山には、天狗がいるといういつたえがありました。そのことをたしかめるために、3人の村人が山に入って木をどんどん切っていました。

木を切り続けた7日目の夕方、村人が風呂に入っていると、急に風呂おけがぐらりぐらりとゆれ、おけごと空にうき上がりました。村人が「二度と山をあらしません。天狗さま、おゆるしてください。」という、風呂おけは、元の場所にもどりました。天狗は山の守り神だったのです。



民話にはむかしの人の
思いや願いが
こめられているんだよ。



(中学年・社会科)

美しい自然が いっぱい

広い三和町には、それぞれの地区に美しい自然がたくさんあります。どれもその土地ならではの気候や地形から生まれたものです。三和町の美しい自然をさがしに出かけましょう。



三坂川(約11km)

上三坂、中三坂、下三坂を通り、川前町で夏井川と合流します。イワナやヤマメなども泳いでいる美しい川です。



好間川(約33km)

三和小学校の前を流れています。雨降山を源流とするきれいな川です。沢渡から永戸へと流れ、夏井川に合流します。



新田の大山桜

土手のしゃ面にたくましく立っています。樹齢400年、太さが約4mのヤマザクラです。いわき市の保存樹木に指定されています。



水石山(標高735m)



県立自然公園に指定されています。頂上にある巨石は、雨を降らす力があると伝えられています。



芝山(標高819m)

古殿町、平田村、三和町の境に位置しています。毎年、春には山開きが行われ、たくさんの方が訪れます。





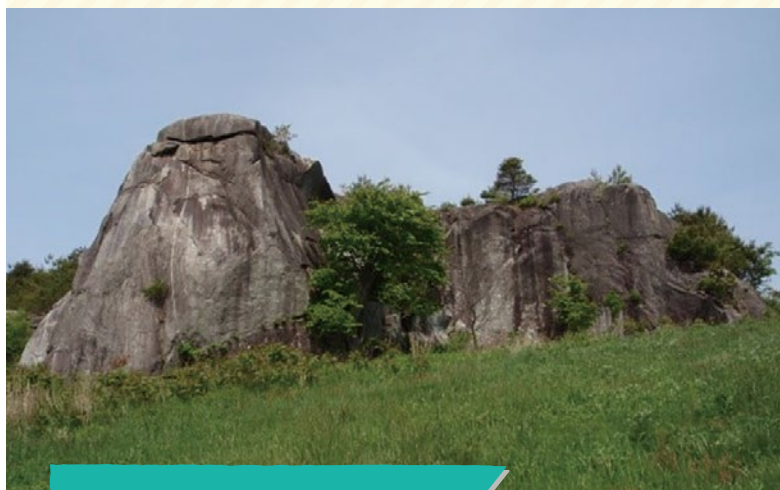
こ だま がわ 小玉川(約25km)

さ い そ す い げ ん お が わ な つ
差塩を水源とする川です。小川町で夏
い が わ ご う り ゅ う な が い さ い そ
井川と合流します。永井・差塩の生活用水
になっています。



さ い そ し つ げ ん 差塩湿原

ひ ょ う が き の こ し ゅ く ぶ つ て ん
氷河期の生き残りの植物といわれるミツガシワ(いわき市の天
ね ん き ね ん ぶ つ さ し つ げ ん
然記念物)が咲く湿原です。



ブナ石

み ず い し や ま ゆ だ け や だ い じ ん や ま ふ た
石の上からは、水石山や湯ノ岳、矢大臣山や二
や ざ ん た い へ い よ う
ツ箭山といった山々、さらに太平洋も見ることがで
きま す。高 さ 8 ~ 10 m の 巨 大 な 石 で す。



し も み さ か た ね 下三坂の種まき桜

じ ゅ れ い や く
樹齢200年、太さ約5mのエドヒガンザクラです。
し て い
いわき市の天然記念物に指定されています。



か み み さ か ぐ り 上三坂のしだれ栗

天 然 の し だ れ 栗 が 生 え て い ま す。古 い 木 は 高 さ
が 3 m も あ り ま す。県 の 天 然 記 念 物 に 指 定 さ れ て
い ま す。



う つ く し ぜ ん
美しい自然にかこまれて、
人々が豊かにくらしてい
るんだね。



むかしの三和町

(中学年・社会科)

三和町のむかしの様子をみていきましょう。交通手段が、歩きや馬から自動車に変わっていったことで、町の様子も、人々の生活も大きく変化していきました。

宿場町として栄えた三和町

今から300年ほど前の江戸時代、浜通りと中通りを結ぶ磐城(岩城)街道が三和町を通っていました。三和町は、米や塩などを運ぶ人々の宿場町として栄えました。宿場町とは、旅人が宿屋にとまったり、休けいしたりするところです。合戸、渡戸、中寺、上市萱、上三坂には、むかしの宿場町の様子が今も残っています。

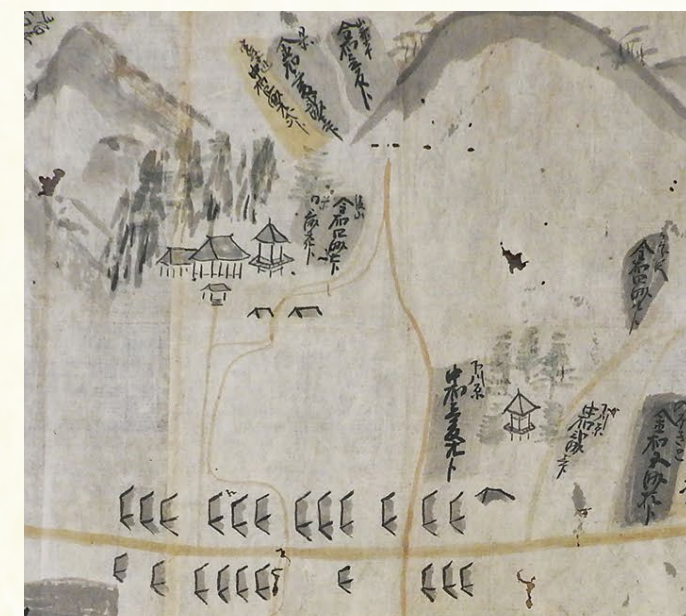


宿場町の様子

宿場町の建物は、道ぞいに、ならんで建てていました。旅人が体を休めたり、旅の準備をしたりできるように、宿屋や茶屋、商店など、多くのお店がありました。



宿場町の様子が残る上市萱(昭和54年)



合戸の古い地図(江戸時代)

むかしの人々の生活

むかしの人々の生活を想像して、今の生活とくらべてみましょう。



むかしの民家(昭和61年)



炭焼きをする様子(昭和48年)



稲刈りを手伝う中学生(昭和30年ごろ)



田おこし(昭和30年代)

むかし使っていたもの



かまど



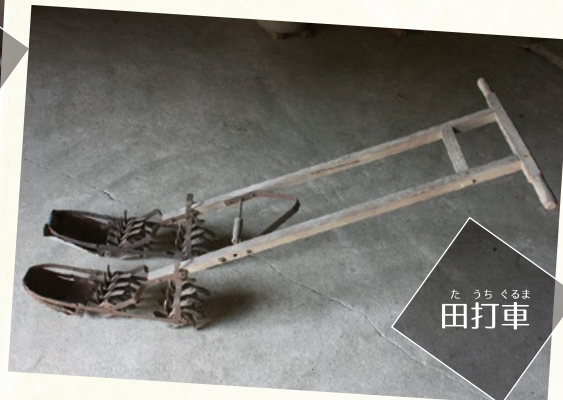
いろり



大八車



行灯



田打車

新しい道路

町内を通っていた道路が、昭和38年(1963年)に、一級国道49号に指定され、道路の整備が進められていきました。また、平成9年(1997年)には、いわき市と新潟県を結ぶ高速道路、磐越自動車道が開通しました。

新しい道路ができたことで交通が便利になり、人々の生活は大きく変わりました。



国道49号の工事の様子(昭和42年)



磐越自動車道の工事の様子(平成6年)

むかしを今に伝えるもの

町のいろいろな所に、むかしのものが残っています。特に、三和町の人々は石仏を大切にしてきました。むかしのことを調べることで、ふるさとのよさを知ることができます。



差塩良々堂山三十三観音

江戸時代、独国和尚が差塩をおとすれました。そして、人々が安心して生活できるように、仏像を建てることを教えました。人々は、その教えを大切に守り、三十三観音と十六羅漢という仏像を建ててお参りました。



お地蔵さま(地蔵尊)

人々は、お地蔵さまを建て、村の平和や、田畑の豊作、子どもの健康を願いました。石仏は、病気などの悪いものが村に入ってくるのをふせぐ力もあるといわれていました。



雨降山の馬頭観音

馬頭尊(馬頭観音)

馬頭尊は、馬への感謝の気持ちをこめて文字などを入れた石(石碑)です。むかしは、物を運んだり、田のしろかきをしたり、様々な場面で馬を使っていました。馬頭尊は、馬を大切に、馬とともに生活してきた人々の暮らしを今に伝えています。

三和町には、お寺や神社、お祭りや行事など、むかしから大切に守られてきているものがたくさんあります。地域の人に聞いて調べてみましょう。

ふるさとの伝統を守る

さん びき し し まい
「三匹獅子舞」

(高学年・道徳科)

さん びき し し まい
「三匹獅子舞」

お盆が過ぎると、大人たちはいそがしくなる。秋祭りが近づくからだ。お祭りには三匹獅子舞を奉納する。三人の男の子が太鼓を打ちながら演じる三匹獅子舞は、江戸時代から続いている。かっこよくて、みんながあこがれるけど、練習はきびしい。父さんが子どものころも泣きながら練習したと言っていた。ぼくの家族は、父さんも、じいちゃんも、大じいちゃんも、みんな獅子役を務めている。今年はぼくの番、師匠は、じいちゃんだ。

練習の初日、じいちゃんが獅子頭を見せてくれた。大きな目に大きな口、獅子は、こわい顔でぼくをにらんでいた。

三和町には、三匹獅子舞やじゃんがら念
仏踊りなど、昔から受け継がれてきたものが
たくさんあります。「三匹獅子舞」のお話を
読んで、伝統を守る人々の思いについて考
えていきましょう。

「だめだ、だめだ、やり直し。」
じいちゃんのどなり声がひびく。いつもはやさ
しいのに、何度もしかられる。

学校から帰ると、すぐ練習。「弓」「花吸い」
「雌獅子取り」など、いくつもの舞をおぼえな
ければならない。やっとおぼえても、笛と合っ
ていないとか、手のふりが小さいとか、じい
ちゃんはきびしい。一番年下のぼくは、まちがえ
てばかりだ。つかれとくやしきで、なみだがこ
ぼれる。こんなにつらいとは思わなかった。早
くお祭りが終わればいい。それが、ぼくの本心
だ。ぼくは、じいちゃんと目を合わせないよう
にしていた。



ある夜、獅子という言葉が聞こえて、ぼくは目をさました。となりの部屋で、母さんとじいちゃんが話をしていた。



「まことが、練習がきびしすぎると言っていましたよ。だいじょうぶですか。もう、時代がちがうんですよ。きびしいと、子どもたちはついてこないですよ。」

「いや。きびしい練習をのりこえてこそ、りっぱな獅子役になれるんだ。おれも、まことの親父も、みんなそうだった。舞をおぼえればいってもんじゃない、獅子役のほこりを受け継ぐのが大切なんだ。そうやって、ずっと獅子を守り続けてきたんだ。まことにも…。」

じいちゃんの話聞いてしまったぼくは、ねむることができなかった。

お祭りが近づいたある日、一人のおばあさんが、つえをつきながら練習場に入ってきた。こしは曲がり、やっと歩いている。ぼくたちの練習をじっと見つめ、終わるとゆっくり近づいてきた。

「今年の獅子役さんもりっぱだねえ。毎年楽しみにしてるのよ。獅子の時期になると、みんなうれしそうで地区がにぎやかになるからねえ。ここにお嫁に来てよかったなあって思うのよ。がんばってね。」



そう言うと去って行った。その後ろ姿を見送りながらじいちゃんが言った。「あのおばあさんは一人暮らしなんだ。東京にいる息子さんも獅子役を務めたそうだ。毎年練習を見に来るんだよ。あのおばあさんだけじゃないぞ。みんなが獅子を楽しみにしている。地区の人間が、昔から、ずっと大切に守り続けてきたんだ。あの東日本大震災の年だって獅子舞は中止にできなかったくらいだ。」

お祭りの前日、歴代の師匠たちに舞を披露した。はじめてつけた獅子頭は、ずしりと重かった。とちゅうで、こしや足がいたくなってつらかったけど、ぼくは歯を食いしばった。そして、最後の練習が終わった。

「明日、だいじょうぶかなあ。」とぼくがつぶやくと、じいちゃんが言った。「おまえたち三人なら、きっと、りっぱにできる。しっかりたのんだぞ。」ぼくたちは、大きくなずいた。獅子頭の日輪がキラリと光った。獅子が、ぼくたちを、はげましているかのように見えた。



(編集委員会作成)

受け継がれてきた伝統



じゃんがら念仏踊り



やっちき踊り

お祭りや行事など、むかしから受け継がれてきたものが、たくさんあるんだよ。

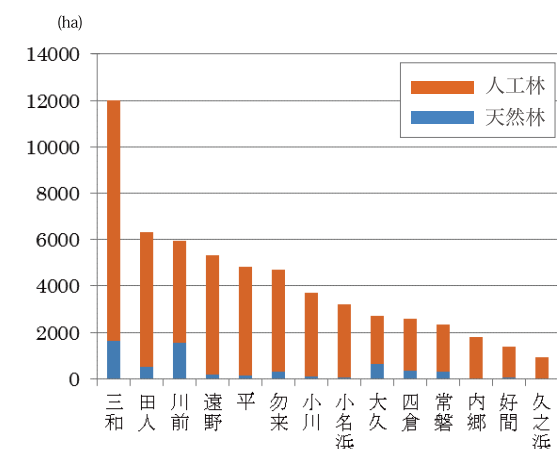


ふるさとの森林

(高学年・社会科)

いわき市は、総面積の約72%が森林です。そして、市内で森林面積が最も多いのが三和町です。豊かな森林は、わたしたちの生活とどのようにかかわっているのでしょうか。

いわき市の地区別民有林面積



※民有林(国有林を除いた県や市の森林と私有林など)
(H26福島県森林・林業統計書 参考)

町の産業を支えた森林



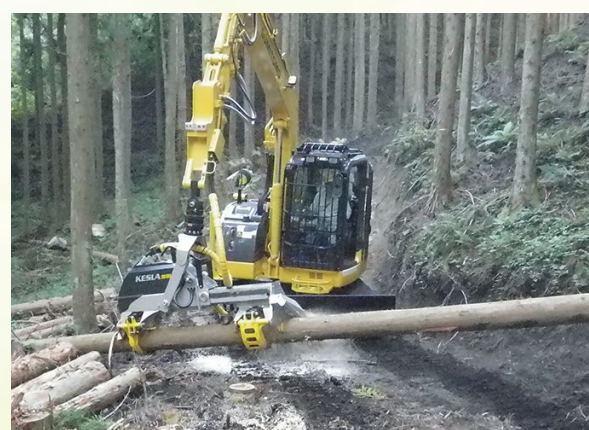
木材の切り出し(昭和42年)

三和町の山の土は、栄養をたくさん含んでいるので、よい木が育ちます。特に、スギの生育に適していて、昔から三和町は林業の町として栄え、良質な木材の産地として広く知られています。

昔、燃料として使う木炭が大量に必要なところは、いわき市全体の産業の発展にも貢献しました。

しかし、燃料の中心が木炭から石油に変わり、外国からの木材の輸入が増えたことで、国内の木材が以前のように使われなくなり、林業で働く人が少なくなってきました。

それでも、町の人々は、三和町の林業の発展に向けて、森林の手入れを工夫したり、新しい機械を導入したりする努力を続けています。



新しい機械「ハーベスタ」での枝払い(平成27年)

森林のさまざまな働き

森林は、わたしたちの健康で安全な生活のために大切な役割をもっています。森林の働きについて調べてみましょう。



木の手入れをする人々

森林の働き

1 「空気をきれいにする」働き

森林は、人間が生きていくために欠かせない酸素を生み出しています。

2 「きれいな水を生み出す」働き

山は雨水をたくわえ、水をろ過し、きれいな水を絶えず流し続けます。

3 「災害を防ぐ」働き

木が地中深くまで根を張ることで地面が固定され、山崩れを防ぎます。

4 「豊かな海を育む」働き

山から流れてくる水は、たくさんの栄養を含み、魚や貝などの海生生物を育てます。

5 「生き物のすみかになる」働き

森林は、さまざまな野生生物の生活場所になっています。

6 「木材を生み出す」働き

木材は、わたしたちの生活に必要な建築材や紙の原材料になります。

「水の旅」 あめふりやま ～雨降山から太平洋へ～

好間川の水は、どこで生まれ、どこに流れていくのでしょうか。水の流れを追いかけてみましょう。

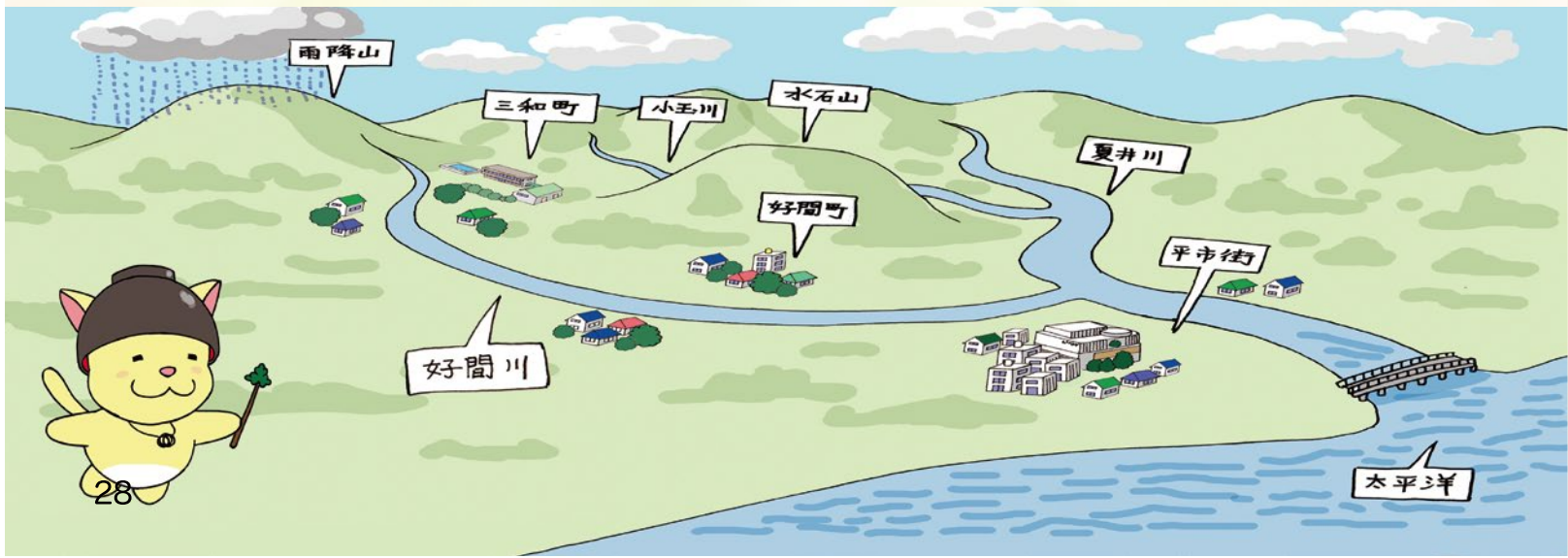


雨降山の様子
好間川の源流は雨降山にあります。山のあちらこちらで湧き出た水は、少しずつ集まり、やがて細い川(沢)となって山を流れていきます。

三和町を流れる川の様子
水が三和小学校の近くを流れるころには、大きな川(好間川)になっています。きれいな川にしか生息しないカワゲラやサワガニなどの水生生物がたくさん見られます。

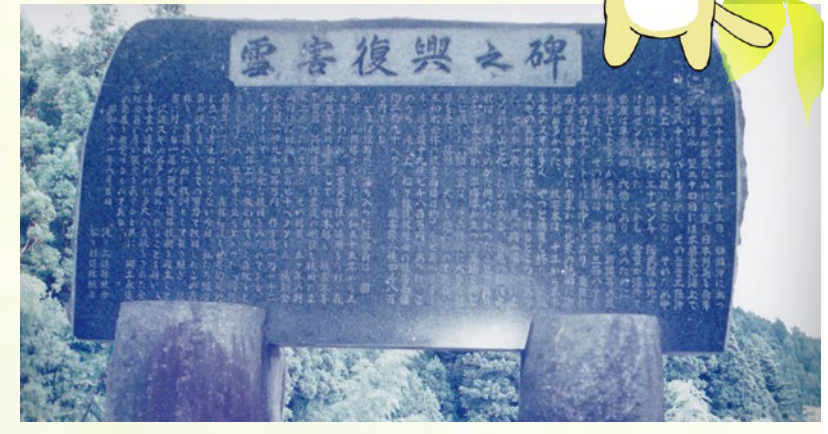


太平洋に流れこむ様子
川は、平付近で夏井川と合流し、水は太平洋に流れこみます。川の水は栄養分を多く含んでいます。雨降山が生み出す水が、豊かな海をつくっているのです。



森林をよみがえらせた町民

これはなんの石碑なのか、みなさんは知っていますか？



これは、雪書(ゆき)を乗り越え、森林をよみがえらせた町民の努力をたたえた「雪害復興之碑」です。市民グラウンド(下市萱)近くに建てられています。昭和55年の12月24、25日にかけて大雪がふりました。水気を多く含んだ重たい雪だったため、たくさん(おほく)の木が折れたり倒れたりしました。

この災害は、「クリスマス豪雪」とよばれています。豊かだった森林が、わずか数日で枝葉がなくなり、幹だけが残って山肌(やまはだ)にならぶ光景は、まるで墓場(はかば)に塔婆(とうば)が並んでいるようだったと言われています。山肌が見える斜面(しゃめん)では、土砂災害の心配もありました。

人々は、先祖(せんぞ)が大切に守り続けてきたふるさとの森林を自分たちが救わなければならないと立ち上がり(たがり)ました。倒木(たうぼく)を起(ひ)き、被害木(ひがいぼく)を整理(せいり)し、作業道(さぎょうだ)を整備(せいび)し、災害跡地(さいがいち)に造林(ぞうりん)するなど懸命(けんめい)に復興(ふっこう)作業(さぎょう)に取り組み(とくみ)ました。



三和町の豪雪状況(昭和55年)

しかし、復旧(ふっきゅう)への道のり(かみち)は簡単(かんたん)ではありませんでした。春(はる)の田植(いね)と秋(あき)の稲刈(いね)り以外(いね)は、ずっと復興(ふっこう)に向けて汗(あせ)を流(なが)す毎日(まいにち)でした。そして、人々(ひとびと)の努力(どりよく)によって、少しずつ(しんじゆつ)災害前(さいがいぜん)のような森林(しんりん)の姿(すがた)にもど(もど)ってきました。

現在の三和町(さんな)の豊かな森林(しんりん)は、先人(せんじん)の苦勞(くろう)を今(いま)に伝(つた)えています。

三和町(さんな)の広大な森林(ひろ大なしんりん)は、産業(さんぎん)として町(まち)を発展(はってん)させただけでなく、わたしたちの豊かな生活(せいかつ)のためにも、なくてはならないものです。
みなさんは、森林(しんりん)を守り続ける人(ひと)たちの思い(おも)いをどのように感じ(かん)じましたか。

しどう
交通指導員



子どもたちが安心して通学できるように、毎朝、交通指導をしています。子どもたちが明るくあいさつしてくれれば、わたしも元気になります。



季節ごとに花を植えています。花だんの手入れは大変ですが、遠くから来た人にも「三和町は花がたくさんあってきれいですね。」と言われるので、やりがいがあります。



ふじん
婦人会

町を支えている人々

(高学年・総合的な学習の時間)

イベントの実行委員



三和の里フェスティバルやお祭りなどは、ボランティアの人々に支えられているんだね。



仕事が終わってから、みんなで集まって話し合いをします。アイデアを出したり準備をしたりするのは時間がかかりますが、町の人を楽しみにしていると思うと苦勞も気になりません。



しょうぼうだん
消防団



消防団の様々な活動

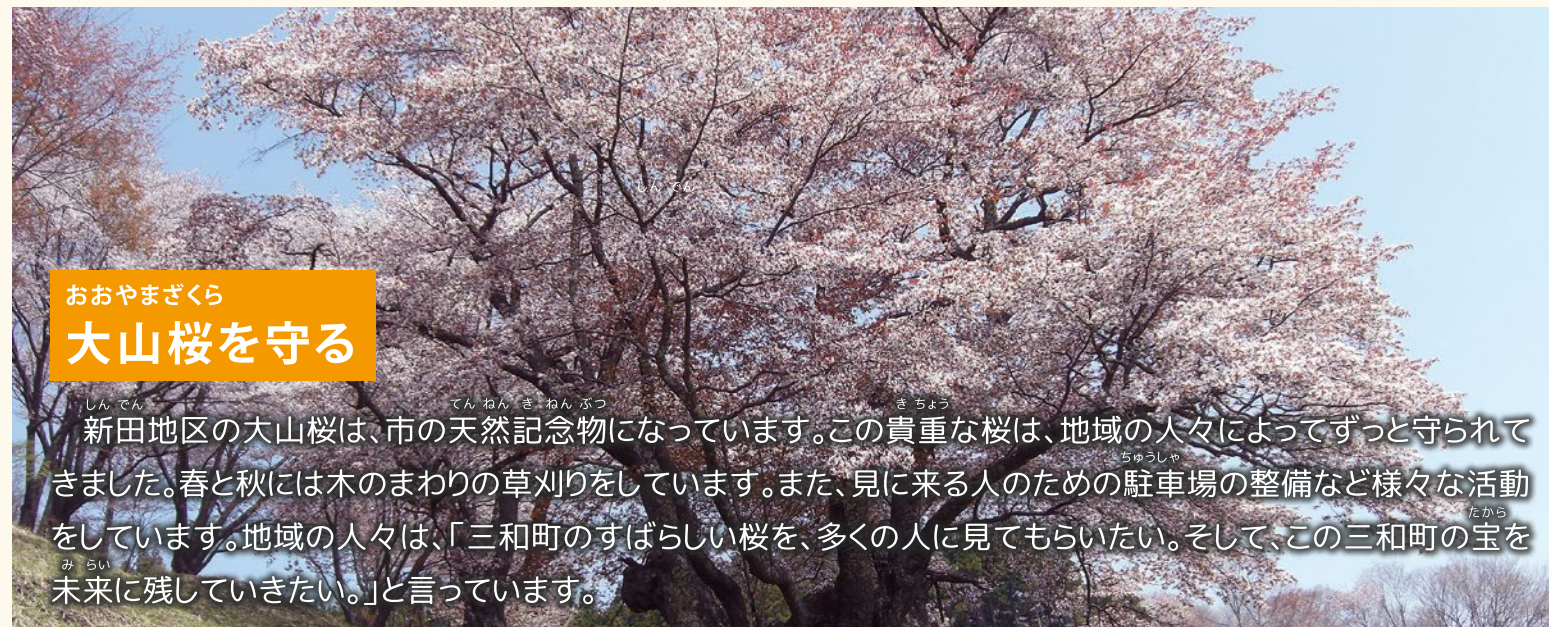
- 1 火事が起きたときの消火
- 2 災害が起きたときの救援
- 3 ポンプ車の点検や消火訓練
- 4 老人ホームなどでの救助訓練
- 5 防災の呼びかけや見回り
- 6 イベントでの警備や交通整理
- 7 火災予防の広報



わたしたちは、火事の時だけでなく、様々な活動をしています。三和町には約300人も消防団員がいます。そろいの法被を着ると気合いが入ります。みんなで力を合わせて三和町のためにがんばります。

三和町を豊かで住みよい町にするために、多くの人々が、そうじや草刈り、町内の見回り、地域行事への協力などのボランティア活動をしています。町は、わたしたちが気づかないところでがんばっている人たちに支えられています。

おおやまざくら
大山桜を守る



新田地区の大山桜は、市の天然記念物になっています。この貴重な桜は、地域の人々によってずっと守られてきました。春と秋には木のまわりの草刈りをしています。また、見に来る人のための駐車場の整備など様々な活動をしています。地域の人々は、「三和町のすばらしい桜を、多くの人に見てもらいたい。そして、この三和町の宝を未来に残していきたい。」と言っています。

三和町は、ボランティア活動を行っている様々な人々に支えられています。みなさんは、三和町民の一人として、どんなことができるでしょうか。

夢をかなえる

(高学年・学級活動)

三和町のすばらしさ

みなさんは、三和町の自然や歴史、伝統、そして、それらを支える人々について学んできました。これまでの学習をふり返って「三和町のすばらしさ」を見つめ直し、これからの自分の生き方を考えてみましょう。



三和町のすばらしさから学んだことを表現しよう

三和町のすばらしさから学んだことを作文に書いてみましょう。そして、友だちと紹介し合ったり、地域の人を呼んで発表会を開いたりしましょう。

心の成長をふり返ろう

「ふるさと」を学んで、どんな心が成長しましたか。その心は、あなたの日々の行動をどのように変えていますか。



心の成長の感じ方は一人一人ちがいます。自分が大切にしたいと思う心について友だちと語り合ってみましょう。きっと、おたがいのよさに気づくことができるでしょう。



自分の成長をふり返り、「幸せ」や「夢」について考えてみましょう。あなたにとっての「幸せ」とは何ですか。あなたの「夢」は何ですか。

「幸せ」って何だろう？
自分の「夢」ってなんだろう？

「幸せ」や「夢」について語り合おう

「夢」をかなえ、「幸せ」をいっぱい見つけるために、大切なことって何だろう……。

卒業する君たちへ

ふるさと三和町が、君たちを育ててくれました。そして、ふるさとは、これからも君たちの心の支えとなってくれるでしょう。悩んだ時やつらい時は、ふるさとから学んだことを思い出してください。君たちが、すてきな夢をかなえることを、そして、幸せをいっぱい見つけることを願っています。

まだまだあるよ

三和のよさ

三和町って、やっぱりすてきな所だね。知れば知るほど、好きになっちゃう！



だいしこうだんご
大師講団子

大師講団子は、あずき小豆がゆに米の粉きょうどの団子を入れた郷土料理です。

野菜

寒暖の差がある三和町では、あま甘みのあるおいしい野菜が作られています。



ふくじゅうそう
福寿草

春になると、下三坂周辺では福寿草をあちらこちらで見かけます。



そば

秋の収穫前には、畑一面が、そばの白い花でいっぱいになります。

三和町情報

位置 いわき市の西北部、阿武隈高地にある。
面積 214km²、市内の6分の1の面積を有し、いわき市内でもっとも広い。
海拔 約320～819m
人口 3016人(世帯数1065戸) [平成28年4月1日現在]



みさかじょうあと
三坂城跡

三坂城跡は、戦国時代の城の特徴を色濃く残しています。三倉城、桜城ともよばれています。



三和の里フェスティバル

伝統芸能の踊りや和太鼓の発表、町民の作った作品の展示、町の特産品の販売があり、多くの人でにぎわいます。

たけのうちいせき
竹之内遺跡

地面に柱を立てて作る竪穴式住居の跡やいわき市でもっとも古い縄文式土器が発見された遺跡です。



11の村



「三和は一つ」

三和町は、もともと11の村に分かれていました。それらが、少しずつまとまっていき、昭和30年に、「永戸村」「沢渡村」「三坂村」が一つになり、三和村が誕生しました。そして、昭和41年にいわき市が誕生し、三和町になりました。「三和は一つ」という言葉は、三和町の歴史をあらわしているのです。

あしがき

◇ 監修者

夏井 芳徳 いわき市立いわき総合図書館長

◇ アドバイザー

白木みどり氏 金沢工業大学教授

◇ 作成委員

大内 克之 三和小学校長	田子 裕美 三和小学校教諭
永山 肇一 三和町区長会長	斉藤 直人 三和小学校教諭
佐藤 信一 三和町区長会副会長	高橋 裕香 三和小学校教諭
有馬 義夫 三和町商工会長	平松 恵 三和小学校講師
青木 理香 三和町公民館長	佐久間名月 三和小学校講師
草野 英也 三和小学校PTA会長	栗田 麻帆 三和小学校講師
藁谷 貴志 三和小学校PTA副会長	小山 奈帆 三和小学校養護教諭
根本 一洋 三和小学校PTA副会長	吉田 温子 三和小学校主事
渡辺 洋之 三和小学校教諭	阿部絵里子 三和学校給食共同調理場栄養技師
小池沙和子 三和小学校教諭(編集委員長)	大谷 美穂 三和小学校学校司書
斉藤 美佳 三和小学校教諭	岡部 吉一 三和小学校用務員
松本健太郎 三和小学校教諭	田子 君子 三和小学校用務員

◇ キャラクターデザイン・イラスト

松本健太郎 三和小学校教諭

◇ 執筆協力者

大木久仁子氏 大友 良英氏 小宅 幸一氏 加藤 公昭氏 熊谷 一人氏
佐藤勝比古氏 田子 英司氏 田子 保浩氏 馬目 俊一氏 藁谷 一雄氏(五十音順)

◇ 協 力

三和町区長会 三和支所 三和公民館 三和小学校PTA いわき市立いわき総合図書館
内郷消防署三和分遣所 いわき市森林組合 いわき市暮らしの伝承郷 夏井川流域の会
いわき市総合政策部ふるさと発信課 いわき市消防団第6支団 三和町老人クラブ連合会
三和町地域振興協議会 いわき観光まちづくりビューロー 町内の婦人会 いわき市文化振興課
タウンマガジンいわき

◇ 参考文献

「未来へつなぐ『いわき』ものがたり」(平成28年10月:いわき市)
「平成28年度いわき市の農林水産業」(平成28年3月:いわき市)
「郷土資料集『いわき市』」(平成27年4月:いわき市教育委員会)
「三和の里ふれあいマップ」(平成27年:三和町地域振興協議会)
「三和町『まちづくり基本構想』」(平成24年3月:三和町まちづくり基本構想策定委員会)
「三和町の魅力・財産」(平成22年3月:三和町地域振興協議会・福島高専)
「永井の昔ばなし—ふるさとの民話と伝承—」(平成21年12月発行:永井小・中学校PTA)
「三和町の石仏・石塔」(平成10年3月:三和公民館郷土史教室)
「岩城街道」(昭和60年6月30日:宮本一平)

三和町の自然や歴史、伝統などの地域教材をまとめた資料集「わたしたちの三和」が完成しました。本資料集作成にあたり、地域の多くの皆様とかがわらせていただいたことで、私自身も今まで知らなかった三和町のすばらしさを知ることができました。同時に、皆様の三和町への愛情もひしひしと感じました。

少しずつ形になっていく編集作業の中で、この資料集を活用して生き生きと学ぶ子どもたちの姿を思うと、この取組みの充実感を得ることができたものでした。急な資料の提供をお願いすることも多く、失礼も多々あったことと反省しておりますが、たくさんの写真や文献を快く提供していただきました。お話を伺うと、その出来事だけでなく、携わる人々の思いも熱く語っていただきました。

私たちは、取材したものを学校に持ち帰ってくると、「あれも、これも、資料に盛り込みたい!」という思いがふくらむ一方、ページ数や文字数を制限内にまとめなければならないという葛藤が続きました。載せられなかったお話や資料もあります。しかしながら、「子どもたちのふるさとへの誇りや愛着、感謝の心を育てる」というふるさと教育の目的に向かい、未永く活用していくことのできる資料集を作り上げることができました。この資料集を手にする三和町の子どもたちが、ふるさとを想い、自分の未来を切り拓く人となってくれることを、強く願っています。

最後に、三和町が皆様にとって、ずっと「愛しき三和の里」であることを祈念するとともに、本資料集の作成にご協力いただきました全ての方々へ厚く御礼を申し上げます。

編集委員長 小池沙和子

三和ふるさと教育資料集 「わたしたちの三和」

発行日 平成29年(2017年)3月1日

発行者 三和ふるさと教育推進委員会

連絡先 いわき市立三和小学校

TEL 0246-86-2032

FAX 0246-86-2158

製 作 (株)福島インフォメーションリサーチ&マネジメント

